北里大学病院を受診された患者さん・ご家族の方へ

当院では下記の臨床研究を行っています。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 （整理番号）	Rapid Response System 導入後 10 年の後方視的解析（B26-112）
当院の研究責任者 （所属・職位）	北里大学医学部附属新世紀医療開発センター教授　新井正康
他の研究機関 および 各施設の研究責任者	なし
本研究の概要・背景・目的	Rapid Response System（RRS）とは、入院患者の予期せぬ心停止、死亡、緊急 ICU 入室を減らす院内体制で、1990 年代から、主に先進諸国を中心に導入され、発展してきました。日本語では「迅速対応体制」とも言います。具体的には、一般病棟入院中の患者の生理学的指標など（呼吸数、頻拍数、脈拍数、血圧、意識、体温、尿量、SpO2 や酸素投与の有無など）に一定の基準を設け、その基準に抵触（システム起動の閾値）した場合、それを重症化の予兆ととらえ、重症化の早期に集中治療、集中ケアなどを専門とする医師、看護師チームが、病室に赴き、状態安定のための対処をするシステムです。 本邦では 2000 年代後半から導入する施設が緩徐に増えてきたものの、まだ十分に普及していないのが実情です。北里大学病院では 2011 年から RRS を導入し、2014 年からは 24 時間 365 日の常時体制を敷いてきました。当院は RRS の導入が成功し、体制が定着してきた施設と言っていいと考えています。特に医師メンバーとして集中治療担当麻酔科医が深く関与したことが大きな特徴で す。 本研究の意義としては、RRS の効果について、本邦の成功例として北里大学病院におけるデータを世間に提示するとともに、ここに関わった集中治療担当麻酔科医の影響について考察することにあります。
調査データ 該当期間	2016 年 04 月 01 日から 2025 年 03 月 31 日の間に当院 RRS 起動基準に基づいて RRS 起動となり、Rapid Response Team(RRT)が対応した患者様が調査対象となります。なおデータは、2016 年 04 月 01 日から 2025 年 06 月 30 日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さん	同上
研究の方法 （使用する試料等）	利用する情報 上記期間において、電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。具体的には年齢、性別、現病歴、既往歴、合併症、身長、体重、BMI、薬歴、RRS 起動となった理由（＝抵触した起動基準、病歴)、呼吸療法の内容（酸素投与、nasal high flow therapy、 酸素濃度)、呼吸数、脈拍数、心拍数、血圧、体温、意識、白血球数、好中球分画、リンパ球数分画、血小板数、CRP、電解質（Na, K)、SpO2、尿量です。
試料・情報の 他の研究機関への 提供および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
利用又は提供を開始する予定日	利用又は提供開始予定日：研究機関の長の許可日から 2028 年 03 月 31 日までとなります。

個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 （利益相反）	本研究の遂行のための費用は、医学部一般研究費を使用します。 研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。 また、情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： **所属・職位：北里大学医学部附属新世紀医療開発センター・教授** **担　当　者：新井　正康　（アライ　マサヤス）** **電　　話：042-778-7540**
備　考	